

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
伊万里市	大川地区(構集落)	令和4年2月25日	/

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	41.0ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	41.0ha
③地区内における60歳以上の農業者の耕地面積の合計	7.4ha
i うち後継者未定の農業者の耕地面積の合計	5.2ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0ha
<p>(備考)</p> <p>当地区の大半を峰鶴地区とし、他地区の構成員も含めた峰鶴機械利用組合が存在する。また峰鶴機械利用組合の構成員も含め、60%程度が他集落からの入り作である。</p> <p>水稻耕作以外でも、梨、小ネギ、アスパラ、玉ねぎ、キュウリなど高収益作物に取り組む農家が多数存在している。</p>	

2 対象地区の課題

<p>構地区アンケート結果では現在水稻を耕作している半数が10年以内に農業を辞めるとの回答結果である。集落の将来像について、対象者の農地の受け皿をこれから検討していく必要がある。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>構生産組合には若い耕作者も存在し、また規模拡大志向の農家も存在する。今後5年程度は現状維持の見込みであるが、その後は中心経営体への集約化も進めながら、地域の農地全体における営農継続を図る。</p>

■集落における中心経営体

属性	農業者	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
	中心経営体数 14	水稻、飼料用米、梨、施設胡瓜、他	1900a	水稻、飼料用米、梨、施設胡瓜、他	1900a	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

【農地中間管理機構の活用方針】

構地区を重点実施区域とし、耕作条件改善事業の実施に合わせ、原則として農地中間管理機構を活用し、担い手への集積・集約を図る。